

9月6日(金)



午後5時、エイドリアン市のダウンタウンに移動。ファースト・フライデーという催しが行われていた。市関係者や市議会議員の方がお出迎え。



守山市を歓迎する垂れ幕。心意気に感謝。地元の記者が取材に来られていた。守山市の紹介も含めて今回の訪問について記事を書いていただいた。



写真手前はゴードン夫妻。夫ガウスさんは市議会議員で、昨年、ヒース市長らと共に守山市を訪問。森中市長の左は現地通訳の金村さん。



ホストファミリーの方々と撮影。天気もよく、市民らは催しを楽しんでおり、まちは活気に満ちていた。

9月6日(金)



クロズウェル歌劇場。同劇場は150年の歴史がある国内でも有数の古い建造物。かつては病院、映画館だった。一時は閉鎖の動きがあったが、基金で復活。



劇場の舞台上で歓迎夕食会。ビュッフェ形式で巻きずしや味噌汁などを特別に用意していただく。シェフはエイドリアン市出身の方で、数々の料理コンクールで受賞歴をもつ。



ベリマン前市長らの温かい歓迎の挨拶。キャッスルベリー議員からは、仕事で30カ国訪問したことがあるが、守山市でのホームステイの経験が最も素晴らしかったとの思いを述べられた。



記念撮影。最後に皆でカントリー・ロードの替え歌と琵琶湖周航の歌を合唱。カントリー・ロードは、昨年の守山市訪問の際に、送別会で合唱した思い出の曲。

9月7日(土)



午前9時30分。レナウィ歴史博物館を見学。館長のブルースさんが案内。1900年代初頭に市内の企業ライオンモーターズが製造した自動車が展示。現存するのは世界で2台のみ。



1900年代初頭、市内の金網フェンスの企業が大きな成功を収め、エイドリアン市は世界のフェンスの首都として認識された。



ヒース市長の先祖で、エイドリアン市の初代市長のジェームス・ソードさんの肖像画。



ローラ・ハビランド像の前で撮影。ローラさんは南北戦争時代に黒人奴隷の救済に尽力された方。ブルース館長からエイドリアン市の175年にわたる歴史をまとめた本をいただく。

9月7日(土)



午前11時過ぎ、シエナ・ハイツ大学に到着。フットボールを観戦。写真中央は学長のパーマーさん。選手がサインしたボールをいただく。



コート前に案内してもらい、目の前で、チア・バトンや吹奏楽の迫力ある演奏・演技を鑑賞。



森中市長は先攻・後攻を決めるコイントスを行うためにヒース市長らとコート内へ。見事シエナ・ハイツ大学が先攻に。放送で守山市の使節団を紹介してもらう。



チアリーディングの方と。ヒース市長は以前に同大学で働いており、バトンを教えていた。ヒース市長は若かりし頃、バトンの選手としても活躍。

9月7日(土)



午後2時、エイドリアン大学に移動。マスコットのエイドリアンブルドッグスの石像の前で記念撮影。フットボールを観戦。



学長のドッキングさん。スタジアムの前にあるプレジデントボックスという施設から観戦ができたため快適。この日は本当に寒かった。



ハーフタイムのチアの様子。事前にフットボールのルールを勉強していたため、女性陣からも楽しんでおられた。



同大学はディビジョンスリーに所属。55対20でブルドッグスが勝利。今年コーチが変わり強くなった。

9月8日(日)



午後5時、エイドリアン市に戻り、コムストック公園へ。長年本市との姉妹都市交流に尽力された小島正弘さんに捧げられた記念ベンチが園内に設置されている。



記念ベンチで写真撮影。小島さんの偉大な功績に対して深い敬意と感謝の念が込み上げた。

9月9日(月)



午前10時、アレクサンダー小学校に到着。エイドリアン公立学校区が学校を運営している。市とは別の組織。9月に新学期が始まったばかり。



小学校の授業を見学。ユニークな取り組みにより、生徒はパジャマを着て登校。

9月9日(月)



敷地には中学校が併設。近くにはエイドリアン高校も。市内には4つの小学校と、中学校、高校がある。全体では約2,600人の生徒が在籍。



中学校に到着。学校が始まったばかりなので、プレ授業中。この場所は2016年以前はプールだったが、水漏れにより教室に改修。



廊下には生徒の優れた功績を称える様々なトロフィーが展示。他にも生徒のアート作品や賞状など様々なものが廊下に展示されていた。



音楽の教室。他にも体育館や保健室を見学。保健室は日本のように当たり前にある教室ではなく、貧しい学生がいるため、企業と連携して設立した。

9月9日(月)



エイドリアン公立学校区の教育長ネイト・パーカーさん（青色ネクタイの方）と前教育長のボブ・ベンケ（青シャツの方）さん。ボブさんは今年6月に守山市を訪問。



サム・ビューフォード木工院を見学。著名な椅子職人が設立。現在はNPOが運営。木工技術を学ぶクラスがあり、就業支援などのジョブトレも行う。



先生のルークさんは有名な職人で、指導を受けるために全米から学生が集まる。クラスの定員は24名。今回は18人が市内在住者。受講目的は様々で、生徒の中にプロの職人もいる。



このプログラムでは、7日間で椅子を製作する。ウィンザースタイルのチェアで、伐採したての木材(グリーンウッド)を使用し、釘等は使用せず伝統的な方法で作る。

9月9日(月)



ミシガン州の林産業は巨大で、州経済に約26億ドルの利益をもたらしている。卒業生の就職率は100%。木工は人気のあるプログラム。



LISD(レナウィー教育局)技術教育センターを見学。左からボブさん、当該センター長のベンジャミンさん、LISD教育長のヘイグさん。



ここは学生（中・高校生）の職業訓練場。レナウィー郡内の12校が参加。大学に必要な単位も取ることができる。約1,000人の学生が在籍。授業料は無料。



自動車などの部品を製造するプログラム。芸術、ビジネス、エンジニアリング、マネジメント、テクノロジー、健康科学、ヒューマンサービスなど28のプログラムが用意されている。

9月9日(月)



自動車整備を学ぶプログラム。授業で使用する自動車は寄付されたもの。これとは別に、故障車を修理するプログラムもある。アメリカは自動車を修理して長く使用する習慣がある。



各プログラムにスポンサーが付いている。学校の運営は主に税金でまかなわれているが、レナウィー郡や地元企業はとても協力的なので多くの援助がある。このコミュニティは特別。



溶接のプログラム。溶接工のスキルは就職に有利で、就職先の給料も高いので一番人気のプログラム。最近では女性の受講者も多い。



調理を学ぶプログラム。初日に歓迎夕食会で巻寿司などを振る舞ってくれたシェフはこのプログラムの履修生。

9月9日(月)



プレインウェイブ天体望遠鏡製作所を見学。カルフォルニアからエイドリアン市へ移転。レーザーコミュニケーションも開発しており、NASAで活用される。



観測レベルの望遠鏡を製作。望遠鏡にはレンズを使うものと鏡を使うものがあるが、この会社は後者のもの。全米最大級の観測所を建設予定。



顧客は幅広く、研究機関からアマチュア天文学者まで目的に応じた大小様々な製品を提供している。防衛ミッションで米国軍からの発注もある。



機器の製造から検査まで同じ敷地内で行っているのは世界でこの会社だけ。

9月9日(月)



エイドリアン市から、姉妹都市交流の継続と発展を誓う宣誓書の贈呈。



エイドリアン市から記念品の贈呈。プレインウェイブ社の望遠鏡で撮影した星雲の写真、市内在住の作家が描いた絵画

9月10日(火)



市長室でコーヒブレイク。ガウス議員も参加。市長室には守山市からの数々の記念品が綺麗に整頓され展示されていた。



初日のファースト・フライデーでお会いしたアレンさんが来られ、自身が作成した木工品を贈り物にいただく。アレンさんはヒース市長が勤める保育園でアシスタントとして働く予定。

9月10日(火)



市長室前に展示されている守山市からの記念品の前で撮影。長い歴史を感じる。



庁舎内を見学。市役所には18の部署があり、各部署に職員が1～2名在席。日本では考えられない職員数。行政の役割や仕組みが日本とは異なる。



午前10時30分、エイドリアン大学にあるヒックマン・アートギャラリーへ。学生が作品のキュレーションを行い、展示方法まで企画している。



市内在住の作家カルロス・トバーさん。エクアドル出身で、アメリカに移民。作品の特徴はとても明るい色使いで、幾何学的な模様で人や風景が描かれている。